

議案質疑(6月22日) 江上博之議員

手続きの遅れ、バリアフリー...

天守閣木造化はまだ決まっていない

5月から名古屋城天守閣入場が禁止され、6月市議会では木材の契約議案が出されました。「2022年天守閣木造化は予定通り進んでいる。もう決まったことだ」と言わんばかりの施策提案が続いています。しかし現状は、木造化のための各種手続きは遅れ、バリアフリーの要件も満たしておらず、木材を買う段階ではありません。22日の本会議で、江上博之議員は議案質疑をしました。



る人の補助をしたり、荷物を持つ際に腰の負担を軽くするもので、電動車椅子の方とは関係の無い話です。江上議員は「新技術はないと回答すべき」とただしました。

3 「現天守閣は近世城郭の姿と近代建築の機能性」(観光文化交流局長)

現在の天守閣は、建築費6億円のうち2億円を市民が持ち寄った戦後復興の象徴であり、資料に基づいた精巧な外観を持ちます。江上議員が現天守閣の歴史的価値を問うと、局長は「近世城郭の姿と近代建築の機能性を備え、戦後復興や地域振興など多重のシンボル性を包括する」と現天守を評価。江上議員は「そのような現天守を解体するとなれば相当の理由と費用がかかる。しっかり時間をかけるべき」と指摘しました。

1 木造化手続きは滞っている

江上議員は「名古屋市は、現状変更許可の申請を7月に行う予定だった。市が7月に行うのは申請か」と質問。観光文化交流局長(以下局長)が「7月に行うのは、現状変更許可の申請ではない」と答えたことに対し、江上議員は「文化財法による手続きは進んでおらず木造化は決まっていないのに、木材調達の契約を進めるのは民主的手続きに反する」とただしました。

4 石垣調査は年度末まで遅れる

文化庁は名古屋城天守木造化の条件として、「現在の石垣の劣化状況等に関する現況調査を実施する」などを上げています。しかし未だに調査が始まらないカ所があるなど、予定より大幅に遅れています。江上議員の「いつまでに文化庁の求める調査をするか」との問いに、局長は「年度内に報告書をまとめたい」と答えました。さらに江上議員は「『石垣をしっかりと保全していくことも重要』(河村市長)に変わらないか」と市長にも質問。河村市長は「変わっていない」と応じました。

2 バリアフリーは人権の問題

史実に忠実な木造復元のためにエレベーターを設置しないという河村市長の方針に、人権侵害との批判が高まっています。

江上議員は「人権問題という認識はあるか」と市長に質問。河村市長は、新技術により必ず天守閣へ上れるとして人権の侵害には当たらないとの認識を述べました。

木材の契約の段階ではない

「名古屋城天守閣のために鎮守の森が伐られている」という記事があります。江上議員が真偽を問うと、局長は否定しました。

最後に江上議員は「木材の契約段階ではない。一度立ち止まって市民の声を聞くべき。委員会でも審議していく」と述べました。6月28日と7月2日の10時30分より、天守閣について委員会審議があります。

**エレベーターに代わる新技術
現時点ではなし**

江上議員の「現時点でエレベーターに代わる「新しい技術」はあるか」との問いに、局長は「歩行アシスト機器やパワーアシストスーツが実用化されている」と答弁しました。しかしそれらの機器は歩け